

学びの風便り

リーディングスクール通信61 R8.3.7(金)

発行：松本市教育委員会 教育研修センター



学びの改革のあゆみ 旭町中学校・波田中学校

旭町中学校 ～「あなたらしく」生徒が創れる学校へ～

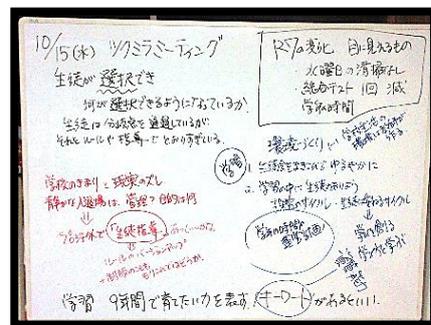
旭町中学校では、学校教育目標「たくましく・やさしく・かしこく」を自分なりの方法での実現に向け、互いを認め合う姿「あなたらしく」を合言葉に、子どもも教師も「つくり手」として学校を再定義しています。

妄想から始まる「学校アップデート」

旭町中学校で行われている「妄想いっぱい話し合い」。仕組みや環境などの視点から、既存の枠組みに捉われないアイデアが次々と出されています。

「縦割り交流を増やしたい」「15分休み時間があるといい」。こうした「妄想」は単なる夢物語で終わらせず、校務分掌を軸としたプロジェクトチームによって、テスト回数の削減や制服登校の柔軟化といった具体的な形へと落とし込まれています。

また、校長・教頭・教務主任・研究主任が雑談ベースでアイデアを練る「ツクミラミーティング」も、こうしたボトムアップの文化を支える重要な場となっています。



職員室の空気を変えた「12月22日の対話」

旭町中学校の変化を語る上で欠かせないのが、12月22日に旭町小学校と合同で行われた研修会です。講師に軽井沢風越学園の岩瀬直樹先生を迎え、55名の教職員が「対話」を通じてこれからの教育の在り方を考えました。



この研修のポイントは、現場のリアルな葛藤をさらけ出したことにあります。「子どもに任せることへの不安」を可視化し、ベテラン教員の挑戦と葛藤をインタビュー形式で共有しました。誰もが不安をもちながらも、チャレンジしていく姿に共感を覚え、さらに「人は言っていることではなく、やっていることについていく」という岩瀬先生の言葉は、多くの先生方の胸に深く刺さりました。

「ただ任せるのではなく、共に悩み、共に考える存在でありたい」。そんなふり返りが多く寄せられたこの日は、校種や立場の垣根を超え、「みんなで創る学校」へと一歩踏み出した転換点となりました。

旭町中学校の実践は、決して特別なことではありません。「明日、5分だけ子どもの声に耳を傾けてみる」「会議の形を少しだけ変えてみる」。そんな「小さな動き」の積み重ねが、教育改革の本質であることを教えてくれています。

「あなたらしく」。その問いは、子どもたちだけでなく、教師自身にも向けられています。年度末、次なるステージに向けて、旭町中学校では「わくわくする妄想」と「真剣な対話」が続いています。

波田中学校 「やってみる」から生まれた波田中の挑戦！

「やってみよう」生徒とともに学ぶ授業づくり

『やってみる』から生まれる、生徒とともに学ぶ授業づくりをテーマに掲げた今年度。波田中学校では、多くの先生たちが授業づくりにチャレンジし公開しました。

英語科では、生徒自身が「英語を学んで楽しい」と意欲をもてるよう、独自の「コース別学習」を導入しました。先生たちがそれぞれの専門性や得意分野を生かして設計した3つのコース。生徒は自分の興味・関心に従ってコースを選び、自ら立てた「問い」の解決に向けて、生き生きと探究を進めていきました。

また数学科では、「もっと生徒同士が学び合える授業に」という願いから「協働的な学びの場」を取り入れた授業スタイルに一新。友のヒントに「連立方程式を使えば（直線の式ができるんだ）」と、自ら解法をつかみ取った生徒。その瞬間の瞳の輝きを参観者から聞いた授業者は「生徒同士学び合う場」のもつ大きな力を再確認したと言います。



こうした挑戦の輪は、教科の枠を超えて広がっています。授業を参観した先生たちは、付箋に「学んだこと・感じたこと」をフィードバックし、研究主任が用意したボードへ。教科の垣根を越えてお互いの実践のよさに学び合う「同僚性」や「挑戦を楽しむ気風」が、今、確実に広がっています。



■先生たちも「ワクワク」！「職員研修」で見つけた探究の種

「やってみよう」と挑戦する波田中の先生たちは、この1年間、職員研修を通して、対話を重ねながら、一歩ずつ歩みを進めてきました。

「まずは自分たちが楽しみながら探究する」(7・8・9月)

始まりは7月の「職員探究の日」でした。全職員で取組んだ「問いづくり」の研修。「問い」を立てる難しさとする視点と共有しました。

8月下旬「職員探究の日パート2」では、その学びをもとに地域へ。「波田地区の魅力を探ろう」と興味関心のあるテーマごとにグループを組み、立てた「問い」を解決するために地域に飛び出しました。

9月の中間アウトプットディでは、それぞれのグループが手にした成果や直面した課題をありのままに語り、仲間からのフィードバックによって、新たな視点や「探究する楽しさ・学びのよさ」を実感する機会になりました

「やってみる」を広げる対話カフェ(1月)

1月末、この一年の「やってみよう」という挑戦の成果を共有する場として「対話カフェ」を開催しました。当日は6名の代表の先生がアウトプット。ICT活用事例や「あえて失敗の余白を残し、生徒に考えさせる理科実験」といった試みまで、多岐にわたる挑戦が語り合われました。「やってみる」から生まれたそれぞれの手ごたえを分かち合い、仲間の挑戦をリスペクトし合う姿。こうした先生たち自身の「挑戦を楽しむ姿」こそが、生徒たちの挑戦する意欲や「ワクワク感」へとつながり、生徒たちを「探究的な学び」へと誘う原動力になっています。

■3年生「探究」への挑戦！

先生たちの「挑戦する気風」は、生徒たちのマインドにも届いています。今年度、3年生は、波田中として初めて、総合的な学習の時間を「テーマ別の探究」の場と位置付け、クラスの枠を超え、28のテーマに分かれ、「問い」の解決に向け探究していきます。この探究の場は、生徒の要望も取り入れ卒業間際まで続き、学年内や後輩に向けてアウトプットを行います。

先生と生徒が一体となり取組む「探究的な学び」への波田中の挑戦は、まだまだ続きます。

